



【アジア新興国・地域】 経済回復基調 地域経済活動の再開によって継続

2023年度の実質GDP成長率4.8% と0.6ポイントの上方修正

アジア開発銀行(ADB)は、2023年4月4日、アジア新興国/地域の2023年実質GDP成長率を前年比4.8%とする見通しを発表しました。これは前回2022年12月に発表した4.2%から0.6ポイントの上方修正となります。2024年についても、前回から0.2ポイント引き上げ、2023年同様の4.8%の予測となりました。

今回の引き上げは、中国のゼロコロナ政策の終了や東アジアと東南アジアでの国内需要の増加、観光客の回帰などを反映したものです。ただし、中国で新型コロナウイルス感染が再拡大の様相を見せており、今後も注視が必要な状況です。

東南アジア、2023年成長率は4.7%

東南アジアでは製造業での外国投資が堅調で輸出拡大が期待されるベトナムの成長率が6.5%と最も高い予測となりました。タイやフィリピン、カンボジアでは、主に中国からの観光客の堅調な増加が見込まれています。

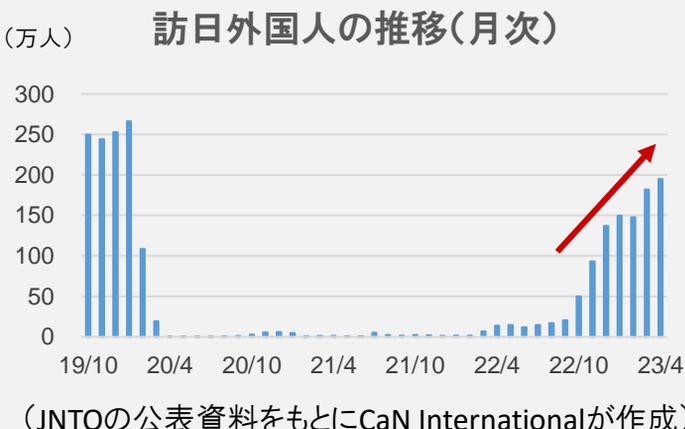
アジア新興国/地域の実質GDP成長率

国・地域	2022(%) 実績	2023(%) 予測	2024(%) 予測
アジア新興国/地域	4.2	4.8	4.8
東南アジア	5.6	4.7	5.0
タイ	2.6	3.3	3.7
ベトナム	8.0	6.5	6.8
フィリピン	7.6	6.0	6.2
カンボジア	5.2	5.5	6.0

(ADBの公表資料等をもとにCaN Internationalが作成)

【日本】 訪日外国人の急増 訪日外国人の消費動向が回復基調

日本政府観光局(JNTO)が5月17日に公表したデータによると、2023年4月の訪日客数は**194.9万人**となっており、新型コロナウイルス禍前の2019年同月比で**66.6%**の水準まで持ち直しています。下記図表からもわかる通り2022年末からの回復が顕著になっています。



また観光庁の訪日外客消費動向調査(1次速報)によると、2023年1-3月期の訪日外客消費額は**1兆146億円**と推計されており、この水準は2019年同月比の消費額である1兆1,517億円の**88.1%**の水準まで回復しています。このように、一人当たり消費額は2019年と比較して増加しており、順調に訪日客が回復した場合、2023年度の訪日外客消費額は2019年度を超えることが期待されます。なお、国籍・地域別の消費額では、韓国が1,999億円(構成比19.7%)、台湾1,535億円(同15.1%)、中国1,069億円(同10.5%)の順で大きくなっています。